

令和5年度 第1回神栖市若手医師きらっせプロジェクト推進会議サマリー

- 1 日時・場所 令和5年7月11日（火） 17:30～18:40
オンライン会議
- 2 出席者 委員 13人 病院事務局 4人 市 10人 受託業者 4人
(別紙名簿のとおり)

3 会議結果

(1) 結果概要

石田神栖市長と永井コーディネーターの挨拶の後、永井コーディネーターが座長となり、次第に基づき、「若手医師受入支援事業費補助制度－医師研修事業の選考について」「分科会実施報告」「研修プログラムの充実」「先進地視察」「レジナビ Fair 出展報告」「情報発信」「令和5年度事業スケジュール」を議題として、報告及び協議が行われた。

協議の結果、若手医師受入支援事業費補助制度は原案どおり承認され、追加案件は後日、市へ申請することが確認された。

「研修プログラムの充実について」の議題に関しては、初期臨床研修病院の指定を受ける必要性や、協力型施設として研修を行う意義とともに、指定に係る課題等について、意見が挙げられた。

(2) 留意事項

①分科会実施報告について

ア 医師修学生実習

- ・ 本実習は、地域医療実習等の単位として認定されるものではないこと、市の修学生が将来の就労先となる医療機関について知ってもらう機会を提供することが目的であることを確認。対象者は、令和5年度は神栖市の医師修学生、修学生医師10名となる。
- ・ 「市修学生実習の案内パンフレットは、良い仕上がりになっている。全国の医学生・初期研修医に向けた神栖市の紹介等に活用されると良い」との意見が挙げられた。

イ 熱傷・薬傷症例検討会

- ・ 委員から「労働災害が発生した場合は軽症であっても必ず医療機関を受診しな

くてはいけないものなのか」「産業医が診察することはできないのか」という質問が挙げられた。これに対し、産業医から「医療機関を受診しないことは労災隠しに繋がる可能性があること」「産業医が常駐していない企業もあるため、できるだけ市内医療機関に受入をお願いしたいこと」が説明された。

- ・ 委員から、熱傷・薬傷症例検討会の動画アーカイブについては、各病院の判断で当直担当医など多くの対象者が視聴できるようにすることが重要であるとの意見が出された。

ウ 看護師確保分科会

- ・ 看護師確保の取組の一つとして、昨年度に引き続き、看護師合同就職相談会を実施する報告がされた。
- ・ 今年度は開催時期を2回に増やすこと、第1回目の相談会では、広報計画として、市ツイッターや市広報紙、新聞折込等のほか、東京都内や千葉県内で勤務中の看護師を対象にアプリバナー広告もされることが報告された。

②研修プログラムの充実について

- ・ 基幹型臨床研修病院の指定に係る困難度等が指摘された。
- ・ すぐに基幹型施設となることは難しくとも、事例として、東京慈恵医科大学のリウマチ内科の医局から白十字総合病院へ、リウマチの教育研修施設になってくれないかといった依頼が直接病院へ来るなど、専門医取得の研修施設としてニーズもあるとの情報共有がされた。「大学で研修している研修医を送り出す医局としても、研修医がただ研修をするためではなく、専門医を取得するなど、その次にステップアップできるような環境を病院に整えて欲しいとの要望があるため、現実化していきたい」との意見が出された。県からの要請だけでなく、大事な研修医を送り出す医局長の立場としても教育研修施設になって欲しいとの要望があるため、県から派遣してもらえないから教育研修環境を整えるのではなく、どういう教育施設だったら研修医の受け皿になれるのか、病院自らが考えていく必要性が挙げられた。
- ・ 基幹型初期臨床研修病院になるのはハードルが高いが、初期臨床研修病院の協力型になる、基幹型を目指すなど、教育研修環境を充実させているという動きを見せる必要性や、協力して地道に進めることに大切さの意見が出された。
- ・ 県の修学資金制度の医師数が700人を超えていく一方で、鹿行地域の医師の配置が当初想定していた医師派遣とはならず残念な状況であること、本会議内の委員の生の声を踏まえ、市は茨城県の保健医療部や医療局長へ医師派遣等の要望

に出向くとの意見がされた。

③先進地視察について

- ・ 登米市立登米市民病院の視察先としての選定理由（令和2年度初期臨床研修病院指定、病床数、常勤医師数等が類似）や石巻市の復興のまちづくりから学ぶ意義等について確認した。

④レジナビ Fair について

- ・ ブース来訪者が後日神栖産業医トレーニングセンターを見学予定といったレジナビ出展が具体的な成果になっている状況が報告された。